

一学期が終業するにあたり、みなさんとこの4か月をふりかえりたいと思います。

まず、一年生は覚えているでしょうか。淡い色をして、美しく咲き誇った桜の花の中で執り行われた入学式。

多くの学校では、校歌はCDで紹介するのが普通ですが、西高は、合唱部のみなさんが校歌を歌ってくれて、新入生のみなさんを迎え入れてくれました。

35年以上教員をしていますが、手作り感があって、とても温かな気持ちになった入学式となりました。部活動では、運動部は4月中旬頃からインターハイ県予選大会が始まりました。3年生にとっては集大成となる大会でした。みなさんにとって、どんな大会となりましたか。

どのくらい真剣だったのかは、本人にはわかりません。でも、二年間という掛け替えのない月日を費やして努力したこと。自分のため、そして、仲間のために…。そういう思いで勝負に臨んだ感情や景色を、この先も決して忘れないでください。

6月には「ともえ祭」がありました。

真新しい新校舎での模擬店。時間に制約がある中でしたが、楽しそうに準備している3年生の様子がインスタにUPされ、多くの方が閲覧していることもわかりました。やはり、「SNSの効果は大きい」と実感しました。西高のファンを一人でも多く獲得する必要性を強く感じたところです。運動部も文化部も、日頃の活動の様子や、試合の様子をドンドン挙げて、「西高」をたくさんの人に知ってもらいましょう。

お茶の会にも寄らせてもらいました。浴衣を着て、「おもてなし」に徹する茶道部のみなさんの姿は、凛としていて清々しく、西高の良き伝統を感じました。ステージ発表では、箏曲部、合唱部、ダンス部の発表がありましたが、そのクオリティの高さにビックリしました。本当に素晴らしかった。ラスト公演となった演劇部。千秋楽となった「梅の実落ちても見もしまい」での一人芝居は圧巻でした。

7月5日には、野球部の夏の選手権大会がありました。4月に入学したばかりの1年生部員を含めて、ぎりぎりの人数ではありましたが、単独チームとして堂々と試合に臨むことができました。一人一人が野球に向き合った熱量と、応援に駆けつけてくれた生徒のみなさんの熱量は、人数の多い少ないに関係なくきっと県内トップクラスです。今後も胸を張っていきましょう。

一学期間お疲れさまでした。始業式で私は、「才能には二種類ある。」「失敗には種類がある。」「決意と決断は違う」という話をしました。

生徒のみなさんに、「高校時代は失敗を恐れずに、様々なことに果敢にチャレンジしてほしい。」とお願いしましたが、この一学期、みなさんはどんな「決意」を固め、どんな「決断」をして、どんな「チャレンジ」ができたでしょうか。

さて、世界に目を向けてみれば、ロシアウクライナ戦争、ガザ紛争、トランプ関税など、現在の世界情勢は非常に不安定です。もちろん、日本も例外ではありません。毎日の私たちの生活では、切実な「物価高」が問題となっています。「物価高」は複合的な要因で起こりますが、

一つは、コロナ禍からの 経済回復に伴う需要の急増。もう一つは、世界的な物流の混乱や 原材料価格の高騰です。貨幣価値との関連も非常に重要で、各国の中央銀行が景気刺激策として大量の通貨供給を行う、いわゆる「金融緩和政策」を行いました。市場では多くのお金が流通しても、その一方では商品やサービスの供給が追いつかず、通貨の購買力（いわゆる、お金の価値）が相対的に下落し、結果として物価全体が上昇する「インフレ」が起こりました。私たちは、これまで以上に、「未来」を予測し、予測困難な事態に備える力を「養う必要」が出てきました。しかし、「未来」は単に予測するだけのものではありません。

みなさんは、「バックカスティング」と「フォアカスティング」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「フォアカスティング」は、現在から未来へ向かって、どのような変化が起こりえるかを予測して、対応していく考え方です。一方、「バックカスティング」は、まず『こうありたい』という理想の姿を描き、そこから逆算して『今、何をすべきなのか』を考える方法です。不安定な時代だからこそ、私たちはこの二つの考え方をバランス良く活用しながら、自らの未来を切り拓いて行く必要があります。漠然とした不安に立ち向かうのではなく、「どんな未来を創りたいのか」という具体を描いて、そこに向かって今できることを積み重ねていく。

この二つの考え方は、二学期以降、みなさんのこれからの人生で、非常に大切な羅針盤（いわば、方向性）のようなものになります。「バックカスティング」「フォアカスティング」できれば、言葉だけでなく、そうした考え方を忘れずに、頭の片隅に置いて欲しいと思います。

未来を創造する（未来を創る）上で、最も貴重な資源の一つが時間です。

一日は 24 時間。一年間で 8,760 時間。誰にとっても同じように与えられているのが「時間」です。みなさんの高校生活は、無限にあるわけではありません。

一日一日をどう使うのか、どう使ったのかによって、未来の自分は変わります。

時間をどのように使うかで、その先の自分は 常に創られているのです。

SNS やインターネットなど、様々な情報が溢れる現代では、それこそ、時間は「あっ」という間に過ぎ去っていきます。「流される」のではなく、意識的に時間を使うこと。自らの成長のためには、「惜しみなく使う」「投資する」ということを選んで欲しいと思います。

そして、その「時間」を最大限に活用する上で不可欠となるのが、「クリティカルシンキング」です。(言い方を換えると、健全なる批判的思考といえます。)

高校生のみなさんは、今や当たり前「スマホ」を持つ時代です。

(ちょっと話が反れてしまっていますが、いわゆるこの「スマホ」、自分のお金で買って、自分のお金で維持している人は、ほとんどいないと思います。みなさんは、「あたりまえ」に 一台 10 万円以上もする高価な端末を持っていますが、そうした費用はお父さんやお母さんなどの、保護者に「依存している」ということも忘れないでください。)

話を戻しますが、自分にとって必要な情報・・・、自分が好む情報は、あなたが良く観るチャンネルや趣味志向にヒットするように、あたかも「これが答えですよ。」というような感じで情報が寄せられます。これらの中には、「正しい」と思える情報もあれば、単純に本人の嗜好に合わせて集まってきただけの情報かもしれません。レスポンスが良く、手元で観ることができる情報は便利ですが、自分にとって本当に必要で、正しい情報だと言えるでしょうか。

与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、「本当にそうなのだろうか?」「他に選択肢はないだろうか?」と、「健全なる疑問」を常に持つようにして、物事を深く考える習慣を身に付けてください。情報過多な時代だからこそ、本質を見抜く・見極める力が求められます。みなさんは、一人一人が未来の社会を担う大切な人です。これから始まる夏休みでは、これまでの自分をふりかえり、未来に向けて、自分が行動を起こす時に、いつまでに「決意」を固めて、どう「決断」するのか、じっくり考えてみてください。「時間」を大切にしてください。

これまでの自分が意思決定してきた場面を想像しながら、「クリティカルシンキング」(健全なる批判的な思考)で、視点や観点を磨く習慣を身に付けてください。

3年生にとっては、自己実現に向けて、これからが「勝負の夏」です。2年生は、生徒会や部活動などの、それぞれの場面で世代交代して、実質上、学校の中心となっていきます。

これからの「西高」の評判は、まさに2年生が創り上げていくものです。学校の主役になる「自覚」はありますか。1年生は、一日一日、清水西高「西高」の生徒になっていきます。

先輩の背中を見ながら、一步一步、着実に底力をつけてください。

制服を着ている時もそうですが、そうでない時ほど、「あの子しっかりしてるな～」とか「気持ち

令和7年度一学期終業式校長訓話 0718

が良い子だね～、どこの学校だろう」「西高」を一步外に出た時の方が評価が高い、そんな生徒になってほしい、「西高」を誇らしく思える人になってほしいと思います。

一人一人の行動が 良くも悪くも「西高」の評判になります。充実した夏休みとしてください。二学期に、西高の全員が元気な姿で、また学校で会いましょう。

令和7年度 一学期終業式の 校長訓話とします。